

はじめに

ある若い先生から「僕は補綴の教室にいたので歯周病は苦手です。つい補綴を先にやってしまうんです」といったお話を聞いたことがあります。そんなとき僕はこう尋ねてみるのです。「補綴出身だから、根管治療しないでコアを入れたり、冠を被せたりするんですか？」と。僕にとっては補綴治療をする前に歯の根管処置をするのが当然であるのとまったく同じように、補綴処置する前に歯周治療をします。根管治療せずに補綴処置をすれば、やがて問題が起こるのは目に見えています。歯周治療をしないで補綴治療をすれば、もっと多数の歯にもっと深刻な問題が起こってきます。

しかし正直なところ、歯周病に取り組む経験が少ない若い先生にとっては、なかなかとっつきにくいだろうことは容易に想像がつかます。そんな若い先生にもぜひ挑戦してほしい思い、この本を書くことになりました。

誤解をまねく危険性を顧みず、あえて極端な表現をすれば、患者さんがその気になってブラッシングを一生懸命やって、僕らがSRPをしっかり行えれば、ほとんどの歯周病は一時的にでも安定します。とりあえずそれを目指してください。しかし、SRPは歯科治療のなかではかなり高度な技術に入るものだと思います。残念ながら今の日本の制度では、これにじっくり時間をとることはかなり難しいです。そこで患者さんにブラッシングのアドバイスをしたり、SRPをじっくりやってくれる専門職がどうしても必要です。当院ではその一番基本的な部分を歯科衛生士がやってくれます。この本でもその部分はその道30年のベテランである当院の山岸貴美恵歯科衛生士に書いてもらいました。彼女の歯肉に対する思いや、SRPへの情熱が伝わると思っています。しかし若い先生には、はじめから歯科衛生士に任せるのではなく、ぜひ先生自身でやってみてください。自分が治せないものを他人に任せることはできません。

僕は大学を卒業してこの6月で40年を迎えました。長野市に歯科医院を開業して38年になります。歯周病に本格的に取り組んで30年あまりになります。まだまだ、克服しなければならない課題を山ほど抱えています。この本を読んだら誰でも歯周病に取り組む気持ちわいてくることを願って書きました。この本を通じて、自分がやってきた臨床のすべてが皆さんに伝わることを願っています。どうぞ今日から試してみてください。

谷口歯科医院 谷口威夫